

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）		４単位
担当者職・氏名	教授・関谷融		
授業概要とテーマ	受講生の研究テーマ設定にあたり、研究者としての基本的な資質を身につけるため、メディア利活用の諸相を多方面から読み解きながら各種メディアの活用法に関する高度な知識と分析手法の集積を目指す。ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、受講生の研究計画に応じた研究課題の設定、研究計画の立案に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) メディア利活用の諸相について課題を抽出し、研究テーマを設定できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に研究方法・計画を立案できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究課題の抽出（１）	メディア利活用の諸相を多方面から読み解いている先行研究の検討等により、興味ある課題を抽出する（既処理の対象を参照）。
	3～4	研究課題の抽出（２）	先行研究の検討等により、興味ある課題を抽出する（未処理の対象の開拓）。
	5～6	研究課題の抽出（３）	先行研究の検討等により、可能な課題を抽出する（対象候補を設定）。
	7～8	研究手法の抽出（１）	先行研究の検討等により、興味ある研究手法を抽出する（既存の研究手法を参照）。
	9～10	研究手法の抽出（２）	先行研究の検討等により、可能な研究手法を抽出する（研究手法の開拓）。
	11～12	研究テーマの設定（１）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する（対象・方法の設定）。
	13～14	研究テーマの設定（２）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する（対象・方法の絞り込み）。
	15～16	研究テーマの設定（３）	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する（先行研究の整理）。
	17～18	研究テーマの設定（４）	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する（先行研究の知見の拡張、応用可能性の検討）。
	19～20	研究テーマの設定（５）	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する（未開拓の分野の有無の検討）。
	21～22	研究計画の立案（１）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や分析方法を立案する（複数の先行研究の比較）。
	23～24	研究計画の立案（２）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や分析方法を立案する（創造的な関連付けの可能性を検討）。
	25～26	研究計画の立案（３）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を設計する（研究項目の整理）。
	27～28	研究計画の立案（４）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を設計する（論旨の明確化）。
29～30	研究計画の立案（５）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。	
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢（各段階での進捗状況を発表・レポートする）60%と学習内容の理解度（発表・レポートの内容が水準に達している）40%から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	特に設定しないが必要に応じて学術論文等の文献を事前に指示する。また、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	メディア利活用、基礎構造、クロスメディア		
授業の特徴	研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域システム特講		
履修上の注意等（履修条件等）	統計学や情報学、経済学などの知見・観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（1年次・通年）	4単位

担当者職・氏名	祁建民		
授業概要とテーマ	近現代中国の政治社会研究（問題意識と資料）		
到達目標	近現代中国の政治社会研究に関する方法と基本資料を指導する。歴史学と社会科学の研究方法、問題意識、先行研究の整理、資料の状況と収集を指導する。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究入門1	歴史研究の一般手法、史料の解読、問題の発見、実証研究
	3～4	研究入門2	社会科学の一般研究法、比較研究、ロジック、総合分析、理論の検証
	5～6	先行研究の整理	文献調査方法、先行研究の整理、先行研究の問題点
	7～8	問題意識の形成1	先行研究の不足発見
	9～10	問題意識の形成2	研究目的の設定と明確
	11～12	問題意識の形成3	研究目テーマの限定
	13～14	研究論文の章立て	論文の内容と構造
	15～16	研究資料の収集	研究テーマに関する資料の状況を確認
	17～18	研究資料の解読	収集した資料を解読し、立証資料を整理する
	19～20	研究資料の分類	資料の重要性によって分類する
	21～22	レポートの作成1	レポートの内容と構成
	23～24	レポートの作成2	問題意識の文字表現方法
	25～26	レポートの作成3	レポートの文脈、ロジック
	27～28	レポートの作成4	レポートの問題と修正
	29～30	まとめ	総合討論
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	レポート50%、発表50%にて評価する。		
テキスト	特定に指定しない。		
参考文献	授業中に指定する。		
科目のキーワード	研究方法、問題意識、資料調査、レポート作成		
授業の特徴	レポートの作成手順を丁寧に指導する。		
関連科目	地域創生学特講、地域創生学演習		
履修上の注意等 (履修条件等)	指導教員の指導を受けて、独自にレポートを作成できる。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1年次・通年)	4単位

担当者職・氏名	教授・森田 均		
授業概要とテーマ	インターネットを含むメディアや交通網などによるモビリティの個別及び相互作用によって形成されるネットワーク社会について、その成立過程、現状分析や将来展望等によって構成する研究を文献資料調査及び現地調査等（電子的手段によるものを含む）に基づき指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。受講生個々の研究に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) ネットワーク社会に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	授業内容	
	1～2	研究テーマの設定（1）	ネットワーク社会に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定（2）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案（1）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案（2）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案（3）	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案（4）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行（1）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（予備調査）。
	17～18	研究の実行（2）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（本調査）。
	19～20	研究の実行（3）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（研究方法の微調整）。
	21～22	研究の実行（4）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（研究方法の修正を含む）。
	23～24	研究の実行（5）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（研究方法の再修正を含む）。
	25～26	研究の実行（6）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（他教員とのディスカッションを含む）。
	27～28	研究の実行（7）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（追加調査）。
29～30	研究の実行（8）	文献資料調査、現地調査等（電子的手段によるものを含む）を実行する（全体の振り返りを含む）。	
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。 評価配分は、レポート50%、発表50%。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	Anthony Elliott & John Urry: Mobile Lives, Routledge, 2010. Tim Ingold: Lines: A Brief History, Routledge, 2007. その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	メディア社会学、ネットワーク社会、モビリティ		
授業の特徴	ネットワーク社会に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、地域システム特講、地域マネジメント特講		
履修上の注意等（履修条件等）	地域社会マネジメント分野に限らず、人間栄養健康科学分野や地域情報工学分野の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）	４単位

担当者職・氏名	教授・山本周		
授業概要とテーマ	本講義は研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、博士の学位に相応しいレベルの研究論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。具体的には、中国文化について多角的に講ずる。学生達の中国文化に対する理解をより深めて、ゼミナールでのディスカッションや学術誌の投稿論文の作成、学会の発表など様々な実践的な訓練を通して高度な研究能力の養成を図る。		
到達目標	学会、研究会、シンポジウム等における発表のため、研究テーマを論文にまとめる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	１～２	ガイダンス・研究タイムテーブル	ガイダンス・研究タイムテーブル
	３～４	研究テーマに関する討論	資料文献講読（１）
	５～６	研究テーマに関する討論	資料文献講読（２）
	７～８	研究テーマに関する討論	資料文献講読（３）
	９～１０	研究テーマに関する討論	資料文献講読（４）
	１１～１２	研究テーマに関する討論	資料文献講読（６）
	１３～１４	研究テーマに関する討論	資料文献講読（７）
	１５～１６	発表テーマの決定・内容の確認	発表テーマの決定と内容の確認
	１７～１８	発表に関するプレゼン	発表に関するプレゼン・検討（１）
	１９～２０	研究テーマに関する討論	資料文献講読（８）
	２１～２２	研究テーマに関する討論	資料文献講読（９）
	２３～２４	研究テーマに関する討論	資料文献講読（１０）
	２５～２６	研究テーマに関する討論	資料文献講読（１１）
	２７～２８	研究テーマに関する討論	資料文献講読（１２）
	２９～３０	発表に関するプレゼン・まとめ	発表に関するプレゼン・検討（２）とまとめ
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照。	
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組み姿勢と研究内容の理解度から総合的に評価する。 ディスカッション40% 研究レポート 30% 研究発表 30%		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	受講者の研究テーマに応じて資料文献を中心に、適宜指示します。		
科目のキーワード	中国文化		
授業の特徴	ディスカッションを中心とする。		
関連科目			
履修上の注意等（履修条件等）	研究タイムテーブルの順守。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）	４単位

担当者職・氏名	教授・谷澤毅		
授業概要とテーマ	流通が地域の発展にいかに関与してきたかを明らかにするために、地域外とのつながりを考慮しながら近世・近代ヨーロッパなどの特定の都市地域を題材として研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、各学生が研究テーマを設定するにあたり、関連領域に関する高度な知識と分析手法の集積を図るなど、研究者としての基本的な資質が身につくよう指導を実施する。研究成果を理解し課題発見力を養うために、演習形式により最新の研究成果を掲載した学術論文や文献を精読し、学術論文作成のための能力を向上させる。また、プレゼンテーションやディスカッションの機会を設けて学会や研究会での発表や討論に備える。各学生の研究計画に即した指導を中心に置き、研究課題の設定や研究計画の立案、史資料の収集、調査、分析に向けて研究指導を進める。		
到達目標	1) 地域流通史に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、研究方法を立案することができる。 2) 研究テーマに関連する国内外の古典的ならびに最先端の文献に通じ、それらについて批判的に義意味することができる。 3) 自ら設定した研究テーマを先行研究と関連させながらオリジナルな研究へと展開し、博士論文の執筆に結びつけることができる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1, 2	研究テーマの設定（１）	地域流通史に関連する事項について国内外の先行研究を吟味精読し、課題を絞り込んでいく。
	3, 4	研究テーマの設定（２）	抽出した課題に基づいて、自分の研究テーマを設定する。
	5, 6	文献・史資料のサーベイ	設定した研究テーマについてどのような文献、史資料が存在するか調査に着手する。
	7, 8	研究計画の立案（１）	設定した研究テーマの性格・特徴を考慮して研究方法を立案する。
	9, 10	研究計画の立案（２）	設定した研究テーマについて、史資料の収集計画を立案する。
	11, 12	研究計画の立案（３）	設定した研究テーマについて、作業の工程表を作成する。
	13, 14	研究計画の立案（４）	工程表に基づき全体の研究計画を確定する。
	15, 16	研究の実行（１）	文献、史資料の講読を進める（サーベイを含む）。
	17, 18	研究の実行（２）	文献、史資料の講読を進める（史資料の分析に着手する）。
	19, 20	研究の実行（３）	文献、史資料の講読を進める（研究方法の微調整）。
	21, 22	研究の実行（４）	文献、史資料の講読を進める（研究方法の修正を含む）。
	23, 24	研究の実行（５）	文献、史資料の講読を進める（他領域の教員とのディスカッションを含む）。
	25, 26	研究の実行（６）	文献、史資料の講読を進める（周辺領域の文献のサーベイを含む）。
	27, 28	研究の実行（７）	文献、史資料の講読を進める（周辺領域の文献の講読を含む）。
29, 30	研究の実行（８）	文献、史資料の講読を進める（全体の振り返りを含む）。	
	定期試験は実行しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業の理解度をレポートや発表にて評価する。また質疑応答やディスカッションへの参加状況などの学習態度も評価の対象となる。 評価配分は、レポート50%、発表30%、学習態度20%。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣、2012年、辛島昇・高山博編『地域の成り立ち』山川出版社、2000年など。必要に応じて文献は適宜紹介する。		
科目のキーワード	流通史、社会経済史、都市史、地域史		
授業の特徴	地域流通史に関連した研究テーマについて課題を設定し、流通が地域の発展にいかに関与してきたかを明らかにするための研究を実施する。地域の発展について社会経済史学を土台として流通史の面から光を当てる。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、地域マネジメント特講		
履修上の注意等（履修条件等）	地域社会マネジメントの領域を基盤としながら、情報の歴史や地域住民の栄養・健康状況に関連させて食材の生産や流通、消費の歴史などに関連した研究テーマを期待したい。		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)		4 単位
担当者職・氏名	教授・山本裕		
授業概要とテーマ	「海運経済研究」やMaritime Policy & Management, Maritime Economics & Logisticsなどの専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、海運経済や港湾経済などの国際交通研究に関する成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。さらに、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	(1) 国際交通研究に関するテーマを設定し、研究方法を立案できる。 (2) 研究テーマに関する文献調査を行い、併せて、実証的な調査を遂行できる。 (3) 研究過程で必要とされる分析手法を獲得する。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1~2	研究の方向性	研究全般について、倫理規定も含め議論します。
	3~4	研究の準備 (1)	関連する英文ジャーナルの読解を文献調査の一環として行います。
	5~6	研究の準備 (2)	関連する英文ジャーナルの読解を文献調査の一環として行います。
	7~8	研究の準備 (3)	関連する英文ジャーナルの読解を文献調査の一環として行います。
	9~10	研究テーマの設定	課題を抽出し、博士論文を見据えた研究テーマを設定する。
	11~12	研究計画の立案	研究テーマに基づいて、研究計画を立案する。
	13~14	研究の実行 (1)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。調査の進め方に関しては他領域、他分野の教員にも相談する。
	15~16	研究の実行 (2)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	17~18	研究の実行 (3)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	19~20	研究の実行 (4)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	21~22	研究の実行 (5)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	23~24	研究の実行 (6)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	25~26	研究の実行 (7)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	27~28	研究の実行 (8)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	29~30	研究の実行 (9)	内外の文献調査、ヒアリング調査、アンケート調査などを実施する。
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照のこと。	
成績評価の基準	A (優)・・・80~100点 B (良)・・・70~79点 C (可)・・・60~69点 D (不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	ストップフォード、星野・篠原監訳 (2014) 『マリタイム・エコノミクス第3版』上巻・下巻、日本海運集会所。Maritime Policy and Management, Maritime Economics & Logisticsなど。分析手法に関する参考書は都度紹介する。		
科目のキーワード	国際交通、海運経済、港湾経済、グローバル・ロジスティクス		
授業の特徴	国際交通に関連する研究テーマを設定して、それに関する知識を修得するとともに、課題に関しては、研究計画を立案し実施する。		
関連科目			
履修上の注意等 (履修条件等)	ビジネスとガバナンス双方の観点から研究を深めることを期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）	4単位

担当者職・氏名	教授・大塚一徳		
授業概要とテーマ	認知心理学、とくにワーキングメモリ機能の解明およびワーキングメモリ容量個人差が人間の認知過程と認知的加齢に及ぼす影響の解明に向けて、実験および調査を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 認知心理学に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定（１）	認知心理学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定（２）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案（１）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案（２）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案（３）	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案（４）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行（１）	認知実験あるいは社会調査を実行する（予備調査あるいは予備実験）。
	17～18	研究の実行（２）	認知実験あるいは社会調査を実行する（本調査あるいは本実験）。
	19～20	研究の実行（３）	認知実験あるいは社会調査を実行する（研究方法の微調整）。
	21～22	研究の実行（４）	認知実験あるいは社会調査を実行する（研究方法の修正を含む）。
	23～24	研究の実行（５）	認知実験あるいは社会調査を実行する（研究方法の再修正を含む）。
	25～26	研究の実行（６）	認知実験あるいは社会調査を実行する（他領域の教員とのディスカッションを含む）。
	27～28	研究の実行（７）	認知実験あるいは社会調査を実行する（追加調査あるいは追加実験）。
29～30	研究の実行（８）	認知実験あるいは社会調査を実行する（全体の振り返りを含む）。	
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	必要に応じて学術論文等の文献を事前に指示する。		
科目のキーワード	認知心理学、ワーキングメモリ		
授業の特徴	認知心理学に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、地域マネジメント特講		
履修上の注意等（履修条件等）	地域社会マネジメント分野に限らず、情報学や栄養科学の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（1年次・通年）		4単位
担当者職・氏名	教授・宮地晃輔		
授業概要とテーマ	<p>営利組織（営利企業）・非営利組織（行政機関等）のいずれも経営組織体として組織目的の到達（達成）のために会計システムを運用することが必要になる。地域企業・地方自治体においては経営資金や財源に関して選択集中的・戦略的な資源配分の必要度・喫緊度が大都市部（中央）と比較して格段に高く、これを支える会計システム運用に対する高度な研究が必要となっている。</p> <p>組織会計システムは、財務情報及び非財務情報を中心としているが、これらに対する国内外研究動向をふまえたうえで高度な研究能力の養成を図り、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。また、営利組織・非営利組織の現場で活用されている組織会計システムの実態をふまえたうえで進化論的アプローチの視点から高度な研究能力の養成を図る。</p>		
到達目標	<p>①組織会計システムについて財務会計領域から先行研究の蓄積内容と従来の論点を理解できる。 ②組織会計システムについて管理会計領域から先行研究の蓄積内容と従来の論点を理解できる。 ③地域企業・地域行政機関等の組織会計システムについて代表的な技法を理解できる。 ④先行研究レビューに基づいて、新規性・独創性を伴う博士論文テーマの設定ができる。 ⑤博士論文テーマ・学術的問い・研究方法の設定ができる。 ⑥博士論文の執筆を段階的に実行し、その内容を発表・討論することができる。</p>		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	組織会計システム先行研究レビュー(1)	組織会計システムにおける財務会計領域の先行研究レビュー第1回目(国内研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	3～4	組織会計システム先行研究レビュー(2)	組織会計システムにおける財務会計領域の先行研究レビュー第2回目(国内研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	5～6	組織会計システム先行研究レビュー(3)	組織会計システムにおける財務会計領域の先行研究レビュー第3回目(海外研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	7～8	組織会計システム先行研究レビュー(4)	組織会計システムにおける財務会計領域の先行研究レビュー第4回目(海外研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	9～10	組織会計システム先行研究レビュー(5)	組織会計システムにおける管理会計領域の先行研究レビュー第1回目(国内研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	11～12	組織会計システム先行研究レビュー(6)	組織会計システムにおける管理会計領域の先行研究レビュー第2回目(国内研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	13～14	組織会計システム先行研究レビュー(7)	組織会計システムにおける管理会計領域の先行研究レビュー第3回目(海外研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	15～16	組織会計システム先行研究レビュー(8)	組織会計システムにおける管理会計領域の先行研究レビュー第4回目(海外研究レビュー)を行い、先行研究の成果を整理する。
	17～18	研究テーマの設定	博士論文テーマの新規性の発見を行い、地域企業・地域行政機関等を想定した受講者自身の研究テーマを設定する。
	19～20	研究計画の設定(1)	受講者自身が設定した研究テーマにおける学術上の問いを明確にしたうえで、研究方法の設定を行う。
	21～22	研究計画の設定(2)	研究を遂行するために必要となる研究図書・学術論文・資料等の明確化及び調査方法・時期の計画を立案する。
	23～24	研究の実行(1)	博士論文導入部分から仮説設定(学術的問い)までの論述を完了させ、発表・討論を行う。
	25～26	研究の実行(2)	博士論文テーマに対する重要先行研究の論点及び博士論文の新規性に関する記述を完了させ、発表・討論を行う。
27～28	研究の実行(3)	博士論文進捗内容の発表と討論	
29～30	研究の実行(4)	博士論文進捗内容の発表と討論	
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	<p>A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下</p>		
成績評価の方法	<p>① 平常点(授業計画における発表・討論の準備・発表内容・研究成果) 30点 ② 博士論文の進捗状況(計画的執筆の進捗度、論文水準の達成度)・・・70点</p>		
テキスト	<p>①伊藤邦雄『新・現代会計入門 第4版』日本経済新聞出版社、2020年。 ②櫻井通晴『管理会計〔第七版〕』同文館出版、2019年。</p>		
参考文献	黒川行治『慶應義塾大学商学会 商学研究叢書 21 会計と社会 ―公共会計学論考』慶應義塾大学商学会、2017年。		
科目のキーワード	組織会計システム、財務会計、管理会計、公会計、環境会計、地域企業、地域行政機関、博士論文		
授業の特徴	組織会計システム分野における博士論文の執筆に必要な導入教育及び博士論文の前半部分について進捗ができるように指導をする。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、特別研究Ⅱ、特別研究Ⅲ		
履修上の注意等(履修条件等)	組織会計システムに関して、財務会計・管理会計・公会計・環境会計といった会計学の各領域を幅広く意識して研究活動を行うことが重要となる。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1年次・通年)	4単位

ぐーろかるけい	教授・矢野生子		
授業概要とテーマ	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響、特に地方経済への影響について経済理論的見地から研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する有名な過去の文献や最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1~2	研究テーマの設定(1)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3~4	研究テーマの設定(2)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5~6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7~8	研究計画の立案(1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9~10	研究計画の立案(2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料などの調達方法を立案する。
	11~12	研究計画の立案(3)	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13~14	研究計画の立案(4)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15~16	研究の実行(1)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(過去の文献の検討)。
	17~18	研究の実行(2)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(最新の文献の検討)。
	19~20	研究の実行(3)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(研究方法の微調整)。
	21~22	研究の実行(4)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(研究方法の修正を含む)。
	23~24	研究の実行(5)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(研究方法の再修正を含む)。
	25~26	研究の実行(6)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(他領域の教員とのディスカッションを含む)。
	27~28	研究の実行(7)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(修正・追加するデータなどの調査)。
29~30	研究の実行(8)	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関する研究を実行する(全体の振り返りを含む)。	
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A(優)・・・80~100点 B(良)・・・70~79点 C(可)・・・60~69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	ディスカッションや報告状況など授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度(報告やレポートの内容)から総合的に評価する。 ・ディスカッションと報告状況 50% ・学習内容の理解度(報告やレポートの内容) 50%		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	藤田昌久、ポール・クルーグマン、アンソニー・J.ベナブルズ 著、『空間経済学—都市・地域・国際貿易の新しい分析』,東洋経済新報社,2007 Joseph Stiglitz and Andrew Charlton, "Fair Trade For All : How Trade Can Promote Development", Oxford University Press, 2005 Joseph Stiglitz, 鈴木主税訳『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』,徳間書房書店,2002 その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	グローバル経済、自由貿易、グローバル経済		
授業の特徴	グローバル化がもたらす国内外の経済への影響に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、地域システム特講、地域マネジメント特講		
履修上の注意等(履修条件等)	経済学の分野に限らず、地域社会学や情報学の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）		4単位
担当者職・氏名	教授・荻野 晃		
授業概要とテーマ	大学院生の現在の国際関係に関する理解を深めることを目的とする。国際問題を読み解くには歴史的な視点が不可欠であると同時に、国際システムの構造を知ることも重要である。大学院生が自ら研究テーマを設定し文献を精読することで、国際情勢を分析するための基礎的な能力を養う。		
到達目標	1) 国際政治に関連した自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の先行研究を把握する。 3) 先行研究の内容を基に、自身の研究の独創性を模索する。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定①	国際政治に関連した研究テーマを模索する。
	3～4	研究テーマの設定②	関心をもった国際問題について理解を深める。
	5～6	研究テーマの設定③	選択した研究テーマに関する基礎的な知識の習得に努める。
	7～8	研究テーマの設定④	選択した研究テーマの基礎的な文献を収集する。
	9～10	研究テーマの設定⑤	選択した研究テーマの基礎的な文献を精読する。
	11～12	研究計画の立案①	選択した研究テーマの国内の先行研究を把握する。
	13～14	研究計画の立案②	選択した研究テーマの国外の先行研究を把握する。
	15～16	研究計画の立案③	邦語文献を読んで、選択した研究テーマの研究動向の把握に努める。
	17～18	研究計画の立案④	外国語文献を読んで、選択した研究テーマの研究動向の把握に努める。
	19～20	研究計画の立案⑤	研究テーマに関連した研究動向を整理する。
	21～22	研究計画の立案⑥	先行研究を踏まえ、研究テーマを絞り込む。
	23～24	研究計画の立案⑦	今一度、大学院生が自身の問題意識を確認する。
	25～26	研究計画の立案⑧	大学院生自身で研究テーマの独創性を模索する。
		27～28	研究の実行①
	29～30	研究の実行②	研究テーマの発表を行う。
		定期試験は実施しない。	成績評価は「成績評価の方法」を参照。
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢、ディスカッション、研究発表の内容に応じて総合的に評価する。		
テキスト	とくに指定しない。		
参考文献	ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ著、田中明彦、村田晃嗣訳『国際紛争 ― 理論と歴史 原書第10版』有斐閣、2017年。		
科目のキーワード			
授業の特徴	大学院生が自身の研究テーマを設定して、博士論文の作成の準備を進める。		
関連科目			
履修上の注意等 (履修条件等)	大学院生自身が責任をもって研究テーマに取り組む。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4 単位

担当者職・氏名	教授・橋本(松本) 優花里		
授業概要とテーマ	高次脳機能障害や認知症の評価や支援方法について、認知心理学、神経心理学、臨床心理学の3つの分野にわたる研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 高次脳機能障害や認知症の評価や支援方法に関する課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。 4) 研究テーマに基づいたレビューを執筆できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定 (1)	高次脳機能障害や認知症の評価や支援方法について、興味あるテーマを選出し、国内外の先行研究等を調べる。
	3～4	研究テーマの設定 (2)	国内外の先行研究を精読し、まとめる。
	5～6	研究テーマの設定 (3)	国内外の先行研究を精読し、まとめる。
	7～8	研究テーマの設定 (4)	国内外の先行研究を精読し、まとめる。
	9～10	研究テーマの設定 (5)	国内外の先行研究を精読し、まとめる。
	11～12	研究テーマの設定 (6)	国内外の先行研究を精読し、まとめる。
	13～14	研究テーマの設定 (7)	研究の目的を設定する。
	15～16	研究テーマの設定 (8)	設定した研究テーマのレビューを執筆する
	17～18	研究計画の立案 (1)	研究の対象者、データの取得場所、研究を遂行するために必要な資料や装置等について立案する。
	19～20	研究計画の立案 (2)	取得するデータとその分析方法について立案する。
	21～22	研究計画の立案 (3)	全体の研究計画を確定し、研究計画書およびマニュアルを作成する。
	23～24	研究計画の立案 (4)	研究に必要な装置や課題を準備する。
	25～26	研究計画の立案 (5)	研究に必要な装置や課題を準備する。
	27～28	予備実験(予備調査)を実施する(1)	予備実験(予備調査)を実施する。
29～30	予備実験(予備調査)を実施する(2)	結果に基づいて全体の研究計画を修正し、研究計画書およびマニュアルを改訂する。	
	定期試験は実施しない		
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	日本心理学会 執筆・投稿の手引き https://psych.or.jp/manual		
科目のキーワード	認知心理学、神経心理学、臨床心理学、高次脳機能障害、認知症		
授業の特徴	臨床現場が抱えるリアルタイムの課題を掘り起こし、様々な分野の知見を踏まえ、必要に応じて他分野と協力しながら解決に向けて研究を進めていきます。心理学の中にとどまらず、工学との連携など、広い視野を持った学際的な研究になることを望みます。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、地域システム特講		
履修上の注意等(履修条件等)			

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（1年次・通年）		4単位
担当者職・氏名	教授・車相龍		
授業概要とテーマ	地域計画論、とりわけ地方（非首都地域）の持続可能な発展を目指した場所デザインおよび価値づけの仕組みづくりについて、質的研究を中心とした研究指導を行う。具体的には、応用地理学・都市設計学・建築計画学などの隣接分野をも視野に入れて研究動向を把握しつつ、問題意識を明確にした上に研究の哲学・質問・課題・主題・目的・方法・倫理などを含む研究計画の設計と遂行、研究成果の公表についての指導を行う。		
到達目標	1) 地域計画論および隣接分野における研究動向を把握し、問題意識を明確にすることができる。 2) 問題意識に応えるための研究計画を設計し、当該分野の知識体系・研究史における研究の意義と位置づけが確認できる。 3) 質的研究（もしくは混合研究）の探究方法を理解し、研究計画の設計・遂行に活用できる。 4) 研究計画を遂行して得られた成果を学会等で公表できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究動向の把握（1）	地域計画論および隣接分野における先行研究の緒文献を批判的に考察し、研究の特徴・成果・限界を明らかにする。
	3～4	研究動向の把握（2）	地域計画論および隣接分野における先行研究の緒文献を批判的に考察し、研究の特徴・成果・限界を明らかにする。
	5～6	研究動向の把握（3）	地域計画論および隣接分野における先行研究の緒文献を批判的に考察し、文献マップを作成することで問題意識を明確にする。
	7～8	質的研究の理解（1）	質的研究の方法論的基礎・広がり・可能性
	9～10	質的研究の理解（2）	モデル構成・記述のコード化・理論構築・記述の意味づけ
	11～12	研究計画の設計（1）	研究の哲学・質問・課題
	13～14	研究計画の設計（2）	研究の主題・目的・方法・倫理
	15～16	研究計画の遂行（1）	予備調査の準備
	17～18	研究計画の遂行（2）	予備調査の成果確認と研究計画（研究方法）の調整
	19～20	研究計画の遂行（3）	関連文献の追加調査と本調査の準備
	21～22	研究計画の遂行（4）	本調査の成果確認と研究計画（研究方法）の微調整
	23～24	研究計画の遂行（5）	追加調査の成果確認と研究結果の予想
	25～26	研究成果の公表（1）	ワーキングペーパーの作成①
	27～28	研究成果の公表（2）	ワーキングペーパーの作成②
	29～30	研究成果の公表（3）	ワーキングペーパーの作成③
			定期試験は実施しない
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	ルーブリックによる学修到達度の評価（授業計画に基づく進捗状況50%+成就水準50%）		
テキスト	サトウタツヤ他『質的研究法マッピング』新曜社、2019		
参考文献	チャールズ テッドリー『混合研究法の基礎：社会・行動科学の量的・質的アプローチの統合』西村書店、2017 ウヴェ・フリック『新版質的研究入門—<人間の科学>のための方法論』春秋社、2011		
科目のキーワード	地域計画論、地方、持続可能な発展、場所デザイン、価値づけ、質的研究		
授業の特徴	地域計画論の視座に立った研究遂行能力の修得・向上を目指した実践指向の問答法（dialectic）基盤の対話式授業		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習		
履修上の注意等（履修条件等）	混合研究の場合、量的研究のアプローチについては、あくまでも質的研究の限界を補完する程度にとどめることにする。		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）		４単位
担当者職・氏名	教授・松尾晋一		
授業概要とテーマ	研究者・大学教員として、歴史資料や歴史的事象に俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な課題発見から解決に必要な情報収集・分析し、課題解決に向けた方法の検討を行うことのできる能力を身につけることを目的とする。具体的には日本近世における政治・外交に関する重要な特定の主題や諸課題に関するテーマをとり上げて考察することで、問題の発見方法や文献資料の読解、論の建て方の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し、表現するための知識と能力を高め高度な研究能力の養成を図る。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	①日本近世の国内政治史史分野から先行研究の蓄積内容と従来の論点を理解できる。 ②日本近世の対外関係史分野から先行研究の蓄積内容と従来の論点を理解できる。 ③歴史史料の読解能力を高めることができる。 ④先行研究レビューに基づいて、新規性・独創性を伴う博士論文テーマの設定ができる。 ⑤博士論文テーマ・学術的問い・研究方法の設定ができる。 ⑥博士論文の執筆を段階的に実行し、その内容を発表・討論することができる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	日本近世史先行研究レビュー(1)	日本近世史における政治史分野の先行研究レビュー第1回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	3～4	日本近世史先行研究レビュー(2)	日本近世史における政治史分野の先行研究レビュー第2回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	5～6	日本近世史先行研究レビュー(3)	日本近世史における政治史分野の先行研究レビュー第3回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	7～8	日本近世史先行研究レビュー(4)	日本近世史における政治史分野の先行研究レビュー第4回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	9～10	日本近世史先行研究レビュー(5)	日本近世史における対外関係史分野の先行研究レビュー第1回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	11～12	日本近世史先行研究レビュー(6)	日本近世史における対外関係史分野の先行研究レビュー第2回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	13～14	日本近世史先行研究レビュー(7)	日本近世史における対外関係史分野の先行研究レビュー第3回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	15～16	日本近世史先行研究レビュー(8)	日本近世史における対外関係史分野の先行研究レビュー第4回目を行い、先行研究の成果を整理する。
	17～18	研究テーマの設定	博士論文テーマの新規性の発見を行い、地域企業・地域行政機関等を想定した受講者自身の研究テーマを設定する。
	19～20	研究計画の設定(1)	受講者自身が設定した研究テーマにおける学術上の問いを明確にしたうえで、研究方法の設定を行う。
	21～22	研究計画の設定(2)	研究を遂行するために必要となる研究図書・学術論文・資料等の明確化及び調査方法・時期の計画を立案する。
	23～24	研究の実行(1)	博士論文導入部分から仮説設定(学術的問い)までの論述を完了させ、発表・討論を行う。
	25～26	研究の実行(2)	博士論文テーマに対する重要先行研究の論点及び博士論文の新規性に関する記述を完了させ、発表・討論を行う。
	27～28	研究の実行(3)	博士論文進捗内容の発表と討論
	29～30	研究の実行(4)	博士論文進捗内容の発表と討論
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	平常点(各回における発表・討論の準備・内容・成果)・・・30% 博士論文の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70%		
テキスト	特に設定しない		
参考文献	必要に応じて学術論文等の文献を事前に示す。		
科目のキーワード	日本近世史、政治、対外政策、外交、史料購読、博士論文		
授業の特徴	日本史分野における博士論文の執筆に必要な導入教育及び博士論文の前半部分について進捗ができるように指導をする。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、特別研究Ⅱ、特別研究Ⅲ		
履修上の注意等(履修条件等)	積極的に国内外の学会、研究会に参加すること。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4単位

担当者職・氏名	准教授・賈 曠	
授業概要とテーマ	国際社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションの課題についてこれまで蓄積されてきたメディアと社会の関係性を論ずる概念モデルや理論的な枠組み等を整理発展し現状分析や将来展望への応用を中心とする研究を国際比較の視点も含む定性・定量分析に基づき指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。受講生個々の研究に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査、分析に向けた研究指導を行う。	
到達目標	1) グローバル・コミュニケーションについて課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。	
授業計画	回	授業内容
	1～2	研究テーマの設定 (1) 国際社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションに関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定 (2) 抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案 設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案 (1) 作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案 (2) 作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案 (3) 作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案 (4) 作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行 (1) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (予備調査)。
	17～18	研究の実行 (2) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (本調査)。
	19～20	研究の実行 (3) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (研究方法の微調整)。
	21～22	研究の実行 (4) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (研究方法の修正を含む)。
	23～24	研究の実行 (5) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (研究方法の再修正を含む)。
	25～26	研究の実行 (6) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (他教員とのディスカッションを含む)。
	27～28	研究の実行 (7) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (追加調査)。
29～30	研究の実行 (8) 文献資料調査、現地調査等 (電子的手段によるものを含む) を実行する (全体の振り返りを含む)。	
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下	
成績評価の方法	レポート50%、発表50%。博士論文に向けた研究活動への取り組みも重視して評価を行う。	
テキスト	特に設定しない。	
参考文献	James Curran, Michael Gurevitch (2005) <i>Mass Media and Society</i> , Bloomsbury USA Academic Daniel Riffe, Stephen Lacy, Frederick Fico, Brendan Watson (2019), <i>Analyzing Media Messages</i> , Routledge Communication. その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。	
科目のキーワード	メディアと社会、国際比較、質的研究	
授業の特徴	国際社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションに関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。	
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、地域システム特講、地域マネジメント特講	
履修上の注意等 (履修条件等)	地域社会マネジメント分野に限らず、人間栄養健康科学分野や地域情報工学分野の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。	

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4 単位

担当者職・氏名	教授・ソムチャイ チャットウィチェンチャイ		
授業概要とテーマ	企業ネットワーク上のコンピュータサーバーやパソコンなどにおいて、リレーショナルデータベース、NoSQLなどの構造化データや、XMLで記述されたオフィス文書、PDF文書などのような半構造化データが保存されている。これらのデータの中からユーザーの検索条件を満たしたものを素早く見つけ出すことは極めて重要である。本科目では構造化データや半構造化データを効率的に行える横断検索手法の開発を目指して、その手法の提案・実装・検証を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 構造化・半構造化データの横断検索手法に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定(1)	構造化・半構造化データの横断検索手法に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定(2)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案(1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案(2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案(3)	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案(4)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行(1)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(予備調査あるいは予備実験)。
	17～18	研究の実行(2)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(本調査あるいは本実験)。
	19～20	研究の実行(3)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(研究方法の微調整)。
	21～22	研究の実行(4)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(研究方法の修正を含む)。
	23～24	研究の実行(5)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(研究方法の再修正を含む)。
	25～26	研究の実行(6)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(他領域の教員とのディスカッションを含む)。
	27～28	研究の実行(7)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(追加調査あるいは追加実験)。
	29～30	研究の実行(8)	構造化・半構造化データの横断検索手法の研究を実行する(全体の振り返りを含む)。
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	1. Szymański J, et al: Semantic Keyword-Based Search on Structured Data Sources (Lecture Notes in Computer Science), 2018. 2. Walmsley P: XQuery: Search Across a Variety of XML Data, O'Reilly Media, 2016. その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	データベース、SQL、NoSQL、XML、文書、検索		
授業の特徴	構造化・半構造化データの横断検索に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、人間情報科学特講		
履修上の注意等(履修条件等)	情報科学分野に限らず、地域社会学や情報学の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4 単位

担当者職・氏名	教授・日下部茂		
授業概要とテーマ	セキュアなセーフウェアの実現に寄与する技術の開発を目指し、情報通信技術を利用するシステムのリスク要因とその対策についての研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) セキュアなセーフウェアに関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定 (1)	セキュアなセーフウェアに関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定 (2)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案 (1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案 (2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案 (3)	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案 (4)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行 (1)	作業仮説に基づく研究を実行する (予備調査あるいは予備実験)。
	17～18	研究の実行 (2)	作業仮説に基づく研究を実行する (本調査あるいは本実験)。
	19～20	研究の実行 (3)	作業仮説に基づく研究を実行する (研究方法の微調整)。
	21～22	研究の実行 (4)	作業仮説に基づく研究を実行する (研究方法の修正を含む)。
	23～24	研究の実行 (5)	作業仮説に基づく研究を実行する (研究方法の再修正を含む)。
	25～26	研究の実行 (6)	作業仮説に基づく研究を実行する (他領域の教員とのディスカッションを含む)。
27～28	研究の実行 (7)	作業仮説に基づく研究を実行する (追加調査あるいは追加実験)。	
29～30	研究の実行 (8)	作業仮説に基づく研究を実行する (全体の振り返りを含む)。	
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	Neumann, Peter G., Computer-Related Risks, Addison-Wesley/ACM Press, ISBN 0-201-55805-X, 1995. その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	セーフウェア、プロジェクトマネジメント、ライフサイクルプロセス、形式手法		
授業の特徴	セーフウェアに関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習		
履修上の注意等 (履修条件等)	情報分野に限らず、地域社会学などの観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（1年次・通年）	4単位

担当者職・氏名	教授・小林信博		
授業概要とテーマ	情報工学分野、とくに現実世界とサイバー空間の融合する領域における制御システム、制御機器、利用者等に対するサイバー攻撃手法の解明および正常動作の維持・確保に寄与する制御システムセキュリティ技術の開発を目指して、安全性評価実験および検証実験を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、学生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、学生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究テーマの設定、研究計画の立案、調査・実験、評価・分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 制御システムセキュリティに関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定（1）	制御システムセキュリティに関連する国内外の事例や報告を調査し、社会的価値と学術的意義のある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定（2）	課題に対する既存の製品や研究論文を調査する。
	5～6	研究テーマの設定（3）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマ（研究目的を含む）を設定する。
	7～8	予備実験（1）	設定した研究テーマに基づいて、予備実験（安全性評価実験）の方法を立案する。
	9～10	予備実験（2）	設定した研究テーマに基づいて、予備実験を行う。
	11～12	作業仮説の立案	予備実験の結果に基づいて、作業仮説（新たな対策）を設定する。
	13～14	研究計画の立案（1）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	15～16	研究計画の立案（2）	作業仮説に基づいて、研究を遂行する為に必要な資料や機材の調達方法や実現方法を立案する。
	17～18	研究計画の立案（3）	作業仮説に基づいて、実証方法を立案する。
	19～20	研究計画の立案（4）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	21～22	研究の実行（1）	研究を実行する（実験環境を構築する）。
	23～24	研究の実行（2）	研究を実行する（実験環境にて本実験（検証実験）を実施）。
	25～26	研究の実行（3）	研究を実行する（研究方法の微調整）。
	27～28	研究の実行（4）	研究を実行する（追加調査あるいは追加実験）。
29～30	研究の実行（5）	研究を実行する（実験結果の評価・分析）。	
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢（ディスカッション40%）と学習内容の理解度（発表60%）から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	各自必要に応じて適切な参考書を選択。		
科目のキーワード	情報セキュリティ、通信・ネットワーク工学、制御システムセキュリティ、組込みシステムセキュリティ、CPS		
授業の特徴	制御システムセキュリティに関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法、実験結果の評価・分析方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、情報セキュリティ特講		
履修上の注意等（履修条件等）	『暗号技術』『コンピュータネットワーク技術』について一般的な知識を習得済で、ITとOTの双方に興味のあることが望ましい。地域創生の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4単位

担当者職・氏名	教授・吉村元秀		
授業概要とテーマ	まちづくり工学に関する研究を通して研究指導を行う。まちづくり工学は、観光学、社会工学、システム科学、認知科学、心理学、情報工学などを含む横断的・学際的な研究分野である。研究テーマを設定するにあたり、これら関連する学問分野を俯瞰的にとらえる高度な情報収集力と読解力、抽象的な物事を具体的な事象へと落とし込む発想力と独創力を身につけることができるよう指導する。具体的には、ゼミ形式により多分野にわたる学術論文を収集・分類し、それら研究成果を読解する能力を養うとともに、社会情勢に即した人間中心のサービスやシステムを着想する能力を養う。また、これら基礎能力を涵養しつつ、研究課題の設定、計画の立案・調査、サービスやシステムの実装に向けた研究指導を継続的に行う。		
到達目標	1) まちづくり工学に関連する事項について自ら研究テーマを設定し、研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の文献を収集・分類し、それらの研究の課題分析ができる。 3) 先行研究を基に立案した研究方法にしたがって、研究を継続的に遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定 (1)	まちづくり工学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、課題を分析する。
	3～4	研究テーマの設定 (2)	分析した課題をもとに、さらに国内外の先行研究を精読し、論点を分類する。
	5～6	研究テーマの設定 (3)	分類した論点をもとに独自の研究テーマを設定する。
	7～8	研究計画の立案 (1)	設定した研究テーマを遂行するにあたって、必要とされる情報や知識、機器や技術について精査する。
	9～10	研究計画の立案 (2)	研究方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案 (3)	研究を遂行するために必要な情報や知識の収集、機器の調達や技術の習得方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案 (4)	最適な研究結果の解析方法を立案する。
	15～16	研究計画の立案 (5)	全体の研究計画を確定する。
	17～18	研究の実行 (1)	基盤となる研究を実行する。必要に応じて打ち合わせを行う。
	19～20	研究の実行 (2)	基盤となる研究を実行する。必要に応じて打ち合わせを行う。
	21～22	研究の実行 (3)	基盤となる研究を実行する。必要に応じて打ち合わせを行う。
	23～24	研究の実行 (4)	基盤となる研究を実行する。必要に応じて打ち合わせを行う。
	25～26	研究の実行 (5)	基盤となる研究を実行する。必要に応じて打ち合わせを行う。
	27～28	研究の実行 (6)	基盤となる研究を実行する。必要に応じて打ち合わせを行う。
	29～30	研究の実行 (7)	基盤となる研究を実行する。必要に応じて打ち合わせを行う。
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。 レポート50%、発表50%にて評価をする。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	必要に応じて学術論文等の文献を事前に指示する。		
科目のキーワード	観光学、社会工学、システム科学、認知科学、心理学、情報工学		
授業の特徴	打ち合わせを重ねながら、研究を遂行する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、人間情報科学特講		
履修上の注意等 (履修条件等)			

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）		4単位
担当者職・氏名	教授・片山徹也		
授業概要とテーマ	情報デザイン領域におけるコンテンツのユーザビリティ及びアクセシビリティの向上に寄与するデザイン手法の開発を目指して、現況調査や被験者実験等を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 情報デザイン領域に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定（１）	情報デザイン領域に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定（２）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案（１）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案（２）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案（３）	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案（４）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行（１）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（予備調査あるいは予備実験）。
	17～18	研究の実行（２）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（本調査あるいは本実験）。
	19～20	研究の実行（３）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（研究方法の微調整）。
	21～22	研究の実行（４）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（研究方法の修正を含む）。
	23～24	研究の実行（５）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（研究方法の再修正を含む）。
	25～26	研究の実行（６）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（他領域の教員とのディスカッションを含む）。
	27～28	研究の実行（７）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（追加調査あるいは追加実験）。
	29～30	研究の実行（８）	現況調査あるいは被験者実験等を実行する（全体の振り返りを含む）。
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	事前の文献収集や授業時のディスカッションの状況等の学習態度及び研究の遂行状況から総合的に評価する。レジュメ・スライド資料等の提出物50%、授業時の学習態度・発表内容50%		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	研究計画及び研究題目に応じて専門書、学術論文等の文献を事前に指示する。		
科目のキーワード	情報デザイン、人間中心設定、ユーザビリティ、アクセシビリティ		
授業の特徴	情報デザイン領域に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講		
履修上の注意等（履修条件等）	履修条件は特に設けない。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（1年次・通年）	4単位

担当者職・氏名	教授・星野文学		
授業概要とテーマ	情報セキュリティ、特に暗号設計学および暗号解析学、の学問的発展への貢献を目指して、理論研究あるいは計算機実験を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 暗号学に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定（1）	暗号学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定（2）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案（1）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案（2）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案（3）	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案（4）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行（1）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（予備調査あるいは予備実験）。
	17～18	研究の実行（2）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（本調査あるいは本実験）。
	19～20	研究の実行（3）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（研究方法の微調整）。
	21～22	研究の実行（4）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（研究方法の修正を含む）。
	23～24	研究の実行（5）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（研究方法の再修正を含む）。
	25～26	研究の実行（6）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（他領域の教員とのディスカッションを含む）。
	27～28	研究の実行（7）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（追加調査あるいは追加実験）。
29～30	研究の実行（8）	計算機実験あるいは理論研究を実行する（全体の振り返りを含む）。	
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢(ディスカッション40%)と学習内容の理解度(発表60%)から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	岡本 龍明: 現代暗号の誕生と発展, 近代科学社, 2019 Lindell Y(Ed): Tutorials on the Foundations of Cryptography, Springer, 2017 Joux A: Algorithmic Cryptanalysis, CRC Press, 2009 その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	情報セキュリティ、暗号設計学、暗号解析学		
授業の特徴	暗号学に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、情報セキュリティ特講		
履修上の注意等(履修条件等)	暗号学分野に限らず、情報学や計算機科学の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4単位

担当者職・氏名	教授・平岡透		
授業概要とテーマ	画像工学や空間情報工学の技術を基にした地域防災や地域活性化、ノンフォトリアスティックレンダリングなどに関する研究を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 画像工学や空間情報工学の技術を基にした地域防災や地域活性化、ノンフォトリアスティックレンダリングなどに関する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定 (1)	画像工学や空間情報工学の技術を基にした地域防災や地域活性化、ノンフォトリアスティックレンダリングなどに関する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定 (2)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案 (1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案 (2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案 (3)	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案 (4)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	個人実験 (1)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
	17～18	個人実験 (2)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
	19～20	個人実験 (3)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
	21～22	個人実験 (4)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
	23～24	個人実験 (5)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
	25～26	個人実験 (6)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
	27～28	個人実験 (7)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
	29～30	個人実験 (8)	個人実験の作業を進める。必要に応じて打ち合わせを行う。
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	作業や実験の内容50%、授業態度 (ディスカッションや発表状況) 50%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	必要に応じて学術論文などの文献を事前に指示する。		
科目のキーワード	画像工学、空間情報工学、地域防災、地域活性化、ノンフォトリアスティックレンダリング		
授業の特徴	個別打ち合わせを重ねながら、終始論文のための実験・分析を進めてもらう。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、人間情報科学特講		
履修上の注意等 (履修条件等)			

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4 単位

担当者職・氏名	准教授・斎藤正也		
授業概要とテーマ	時系列解析手法、ベイズ統計を用いた情報システムの記述および解析に関する研究指導を行う。研究指導教員による継続的な指導のもと、研究課題の設定、課題解決に必要な知識・技術を文献および実践を通じて修得させ、研究者としての基本的な資質を養う。知識・技能の修得に関して、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読することで関連分野の動向を探り、また手法や適用対象の拡張の可能性を議論する。必要に応じて文献の主張を再現する数値実験を行うことで実践技術を養う。研究課題の設定、解決に関して、学会発表、原著論文執筆を通して、獲得した知識・技能を実践に応用する能力を養う。		
到達目標	1) 情報システムや現象について博士課程で取り組む研究課題を設定し、数理的に記述することができる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定 (1)	時系列解析およびドメインに関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定 (2)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案 (1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案 (2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案 (3)	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案 (4)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行 (1)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (予備調査あるいは予備実験)。
	17～18	研究の実行 (2)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (本調査あるいは本実験)。
	19～20	研究の実行 (3)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (研究方法の微調整)。
	21～22	研究の実行 (4)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (研究方法の修正を含む)。
	23～24	研究の実行 (5)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (研究方法の再修正を含む)。
	25～26	研究の実行 (6)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (他領域の教員とのディスカッションを含む)。
	27～28	研究の実行 (7)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (追加調査あるいは追加実験)。
29～30	研究の実行 (8)	時系列解析の手法あるいはドメインへの応用研究を実行する (全体の振り返りを含む)。	
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	樋口知之[編著]・データ同化入門, 朝倉書店, 2011 北川源四郎・時系列解析入門, 岩波書店, 2005 CMピショップ著・パターン認識と機械学習, 2006 この他、授業中に指定する研究課題にかかわる原著論文を参照すること。		
科目のキーワード	時系列解析、データ同化、ベイズ統計、機械学習		
授業の特徴	時系列解析の手法または受講者が関心の学術領域(ドメイン)に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、情報セキュリティ特講		
履修上の注意等 (履修条件等)	なし		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究 I (1年次・通年)		4単位
担当者職・氏名	准教授・飛谷謙介		
授業概要とテーマ	感性情報学および機械学習技術を活用した計算機による感性の理解を実現し、新しい感性価値を創出するための技術開発を目的とした研究指導を行う。その際、研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。さらに、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を併せて行う。		
到達目標	1) 感性情報学に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマを設定できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行研究のサーベイに基づき自身の研究テーマの新規性を明らかにし、研究計画を立案・遂行できる。		
授業計画	回		授業内容
	1～2	研究テーマの設定(1)	感性情報学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定(2)	感性情報学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	5～6	研究テーマの設定(3)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	7～8	研究テーマの設定(4)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	9～10	研究計画の立案(1)	自身の研究テーマにおける研究計画を立案する。
	11～12	研究計画の立案(2)	研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案(3)	最適な研究結果の解析方法を立案する。
	15～16	研究計画の立案(4)	全体の研究計画を確定する。
	17～18	研究の実行(1)	研究計画に基づき研究を推進させる(予備調査あるいは予備実験)。
	19～20	研究の実行(2)	研究計画に基づき研究を推進させる(本調査あるいは本実験)。
	21～22	研究の実行(3)	研究計画に基づき研究を推進させる(研究計画の微調整)。
	23～24	研究の実行(4)	研究計画に基づき研究を推進させる(研究計画の修正を含む)。
	25～26	研究の実行(5)	研究計画に基づき研究を推進させる(研究計画の再修正を含む)。
	27～28	研究の実行(6)	研究計画に基づき研究を推進させる(他領域の教員とのディスカッションを含む)。
	29～30	研究の実行(7)	研究計画に基づき研究を推進させる(追加調査あるいは追加実験)。
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	研究の進捗状況(40%)、ディスカッションを通しての学習内容の理解度(30%)、対外的な発表状況(30%)		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	Christopher M. Bishop: Pattern Recognition and Machine Learning (Information Science and Statistics), Springer, 2006 その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	感性情報学、機械学習		
授業の特徴	感性情報学に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、人間情報科学特講		
履修上の注意等(履修条件等)	感性情報学分野に限らず、地域社会学や栄養科学の観点も加味し、社会に積極的に貢献できる研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（1年次・通年）	4単位

担当者職・氏名	教授・大曲勝久		
授業概要とテーマ	臨床栄養学、とくに非アルコール性脂肪肝の発症機序の解明および発症・進展の抑制に寄与する栄養療法の開発を目指して、動物実験あるいは臨床研究を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 臨床栄養学に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定（1）	臨床栄養学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定（2）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案（1）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案（2）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案（3）	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案（4）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行（1）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（予備調査あるいは予備実験）。
	17～18	研究の実行（2）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（本調査あるいは本実験）。
	19～20	研究の実行（3）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（研究方法の微調整）。
	21～22	研究の実行（4）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（研究方法の修正を含む）。
	23～24	研究の実行（5）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（研究方法の再修正を含む）。
	25～26	研究の実行（6）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（他領域の教員とのディスカッションを含む）。
	27～28	研究の実行（7）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（追加調査あるいは追加実験）。
29～30	研究の実行（8）	動物実験あるいは臨床研究を実行する（全体の振り返りを含む）。	
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	Abel T, et al. (Eds): Nonalcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD), Bentham Books, 2017 日本消化器病学会・日本肝臓学会（編）：NAFLD/NASH診療ガイドライン2020、南江堂、2020 その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	臨床栄養学、非アルコール性脂肪肝		
授業の特徴	臨床栄養学に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、実践栄養科学特講		
履修上の注意等（履修条件等）	栄養科学分野に限らず、地域社会学や情報学の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）	４単位

担当者職・氏名	教授・古場一哲		
授業概要とテーマ	食品～食品成分によるメタボリックシンドロームの改善を目指し、脂質代謝調節をキーワードに動物実験を通して食品の機能性およびその作用機序解明に関する研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	１）食品または食品成分の機能性に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 ２）研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 ３）先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	１～２	研究テーマの設定（１）	食品～食品成分の機能性に関する国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	３～４	研究テーマの設定（２）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	５～６	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	７～８	研究計画の立案（１）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	９～１０	研究計画の立案（２）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	１１～１２	研究計画の立案（３）	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	１３～１４	研究計画の立案（４）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	１５～１６	研究の実行（１）	動物実験を実行する（予備実験）。
	１７～１８	研究の実行（２）	動物実験を実行する（本実験）。
	１９～２０	研究の実行（３）	動物実験を実行する（研究方法の微調整）。
	２１～２２	研究の実行（４）	動物実験を実行する（研究方法の修正を含む）。
	２３～２４	研究の実行（５）	動物実験を実行する（研究方法の再修正を含む）。
	２５～２６	研究の実行（６）	動物実験を実行する（他領域の教員とのディスカッションを含む）。
	２７～２８	研究の実行（７）	動物実験を実行する（追加調査あるいは追加実験）。
	２９～３０	研究の実行（８）	動物実験を実行する（全体の振り返りを含む）。
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢50%（研究立案に関するディスカッション、実験の実施状況）および学習内容の理解度50%（分析結果に関するディスカッション、新たな研究の立案）から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	必要に応じて学術論文等の文献を事前に指示する。		
科目のキーワード	食品、機能性、メタボリックシンドローム、脂質代謝		
授業の特徴	自身の研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、基礎栄養科学特講		
履修上の注意等（履修条件等）	自身の研究への主体的な取り組みと指導教員との結果についての積極的なディスカッションを心がけてください。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究Ⅰ（1年次・通年）	4単位

担当者職・氏名	教授 世羅至子		
授業概要とテーマ	生活習慣病のひとつである2型糖尿病、あるいは1型糖尿病患者においては、治療薬あるいは食事療法や運動療法、合併症予防などの糖尿病療養指導の普及・進歩に伴い、平均寿命も延伸している。また加齢とともに糖尿病有病率も高くなっており、高齢糖尿病患者が増加している。2型高齢糖尿病患者においては、高齢非糖尿病患者と比べサルコペニアの有病率が高いことが先行研究で報告されている。また近年、高齢糖尿病患者については低栄養が問題となっている。生活習慣病医療学、病態栄養学の観点から、糖尿病患者の栄養状態やサルコペニアなどの老年症候群について、食事摂取量や運動習慣の有無、糖尿病の病態との関連などを横断的および継続的に調査を行い、これらに影響を及ぼす因子を検討し、糖尿病患者のサルコペニアや低栄養状態の改善に寄与できる研究指導を行う。		
到達目標	1) 高齢糖尿病患者の最新の食事摂取目標量、目標体重など近年見直しが進められている。最新のガイドラインを学習し、現在高齢糖尿病患者が抱える問題点を抽出し議論していく。 2) 国内外の最新の先行研究について文献を調べて、現在明らかになっていること、わからないことを整理しまとめる。 3) 文献を整理した中で、今回明らかにしたい内容について研究計画を立案し、遂行していく。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	倫理規定	ヒト対象とした研究を行うにあたり、必要な倫理規定の順守、個人情報保護について学ぶ。
	3～4	研究テーマの設定（1）	糖尿病患者と様々な老年症候群（サルコペニア、フレイル、低栄養など）について国内外の先行研究を調べて、表に整理していく。
	5～6	研究テーマの設定（2）	その中で現在明らかになっていること、まだ報告がされていないことを整理していく。
	7～8	研究テーマの設定（3）	現在明らかになっていないこと、あるいは明らかになっているがさらに詳しく調べたいものを絞っていく。研究可能な内容かどうかを吟味する
	9～10	研究計画の立案（1）	研究テーマについて、最終到達目標（主要評価項目）を設定する。合わせてこの研究から得られるその他の項目（副次評価項目）を考える
	11～12	研究計画の立案（2）	研究テーマについて、対象者の選択、データ取得の方法などについて検討する。
	13～14	研究計画の立案（3）	長崎県立大学およびデータ収集を行う施設（病院など）の倫理委員会に、研究計画書、倫理委員会申請書類を作成し、提出する。
	15～16	研究計画の立案（4）	長崎県立大学およびデータ収集を行う施設（病院など）の倫理委員会に申請を行う
	17～18	研究の遂行（1）	共同研究を行う施設（病院など）で臨床研究を実行する。（データ収集）
	19～20	研究の遂行（2）	共同研究を行う施設（病院など）で臨床研究を実行する。（データ収集）
	21～22	研究の遂行（3）	共同研究を行う施設（病院など）で臨床研究を実行する。（データ収集）
	23～24	研究の遂行（4）	共同研究を行う施設（病院など）で臨床研究を実行する。（データ収集）
	25～26	研究の遂行（5）	共同研究を行う施設（病院など）で臨床研究を実行する。（データ収集）
	27～28	研究の遂行（6）	共同研究を行う施設（病院など）で臨床研究を実行する。（データ収集） データが集まってきたらデータシートの作成を始める。
29～30	研究の遂行（7）	共同研究を行う施設（病院など）で臨床研究を実行する。（データ収集） データの入力も並行して行う	
	定期試験は行わない	成績評価については「成績評価の方法」を参照	
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	課題・研究テーマに取り組む姿勢（ディスカッションや質問など）40%と、プレゼンテーション30%やレポート30%による学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない		
参考文献	糖尿病診療ガイドライン2016（日本糖尿病学会編 南江堂）、糖尿病治療ガイド2020-2021（日本糖尿病学会編 文光堂）、日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版）、サルコペニア診療ガイドライン2017年版（サルコペニア診療ガイドライン作成委員会 ライフサイエンス出版） その他必要に応じて適切な参考書・先行研究の論文などを使用する。		
科目のキーワード	糖尿病、サルコペニア、低栄養		
授業の特徴	生活習慣病医療学に関連した研究テーマについて課題を抽出し、その解決のための方法を探っていく。資料や文献、先行研究を調べて、自らの研究テーマを決定し実行に移すための計画を立てていく。		
関連科目	アカデミックスキル特論、地域創生学特論、地域創生学演習、実践栄養科学特論		
履修上の注意等（履修条件等）	ヒトを対象とした臨床研究になるため、倫理規定や個人情報保護を遵守し、データの取り扱いについては特に慎重に行う。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4単位

担当者職・氏名	教授・柴崎貢志		
授業概要とテーマ	細胞生化学の視点から、生命科学研究を行う上での基本手技と研究知識を身につける。世界最先端の研究を進めるうえでの独創性を意識して研究を進める。研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。専門分野の最新学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。		
到達目標	自分自身で研究計画を立案する立場になった場合に、どのように計画を立て、実行していけば良いのかが考えられるようになることを目標とする。世界トップレベルの研究知見としてどのような報告があるのかを学び、その研究を自分が行った場合にどう参画すべきかを考察できるようにする。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定(1)	設定しようとする研究テーマに関して、国際研究の流れを精査し、オリジナリティあふれ、意義あるものであるかを検証する。
	3～4	研究テーマの設定(2)	細胞生化学の視点から、独自性あふれる萌芽的な研究テーマの立案を指導教員と進める。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案(1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案(2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案(3)	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案(4)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行(1)	分子レベルの実験を実行する(予備実験)。
	17～18	研究の実行(2)	分子レベルの実験を実行する(本実験)。
	19～20	研究の実行(3)	分子レベルの実験を実行する(研究方法の微調整)。
	21～22	研究の実行(4)	分子レベルの実験を実行する(研究方法の修正を含む)。
	23～24	研究の実行(5)	分子レベルの解析結果に基づき、細胞レベルの検証実験を行う(予備実験)。
	25～26	研究の実行(6)	分子レベルの解析結果に基づき、細胞レベルの検証実験を行う(本実験)。
	27～28	研究の実行(7)	分子レベルの解析結果に基づき、細胞レベルの検証実験を行う(本実験)。
	29～30	研究の実行(8)	分子レベルの解析結果に基づき、細胞レベルの検証実験を行う(本実験)。
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	実験データの精度、解析法の工夫、ディスカッションの深さから総合的に評価する。レポート50%、研究発表50%にて評価をする。		
テキスト	授業ごとにレジメを配布するので、これを参考書代わりに授業を進める。		
参考文献	石崎泰樹 監修・翻訳 イラストレイテッド生化学 原書7版(リップニコットシリーズ)		
科目のキーワード	細胞、応答、感覚、疾患		
授業の特徴	教員から世界最先端の研究知見を紹介する。授業内で学生同士で語り合う時間を設け、様々なディスカッションを行いつつ、研究推進に必要な基礎知識と実験技術の獲得を目指す。		
関連科目			
履修上の注意等(履修条件等)	単位を取得するには前提条件として授業実施回数の3分の2以上の出席を要する。生命科学の奥深さを知るきっかけとして欲しい。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4 単位

担当者職・氏名	教授・倉橋拓也		
授業概要とテーマ	<p>空気中の酸素ガスを消毒や脱色に利用可能な化学試薬として活用することを目指して、錯体化学や有機化学を基盤に、これまでにない独自の原理に基づく新規装置の開発や空気酸化反応実験の解析を通して基礎知識の獲得を重視した研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。</p>		
到達目標	<p>1) 有機化学に関連する事項について課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、その研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の最先端の文献を検索し整理でき、文献の批判的吟味ができる。 3) 先行する研究内容を基に立案した研究方法にしたがって、研究を遂行できる。</p>		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定 (1)	有機化学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定 (2)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案 (1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案 (2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案 (3)	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	13～14	研究計画の立案 (4)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	15～16	研究の実行 (1)	装置製作あるいは化学実験を実行する (予備調査あるいは予備実験)。
	17～18	研究の実行 (2)	装置製作あるいは化学実験を実行する (本調査あるいは本実験)。
	19～20	研究の実行 (3)	装置製作あるいは化学実験を実行する (研究方法の微調整)。
	21～22	研究の実行 (4)	装置製作あるいは化学実験を実行する (研究方法の修正を含む)。
	23～24	研究の実行 (5)	装置製作あるいは化学実験を実行する (研究方法の再修正を含む)。
	25～26	研究の実行 (6)	装置製作あるいは化学実験を実行する (他領域の教員とのディスカッションを含む)。
	27～28	研究の実行 (7)	装置製作あるいは化学実験を実行する (追加調査あるいは追加実験)。
	29～30	研究の実行 (8)	装置製作あるいは化学実験を実行する (全体の振り返りを含む)。
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	<p>A (優)・・・80～100点 B (良)・・・70～79点 C (可)・・・60～69点 D (不可)・・・59点以下</p>		
成績評価の方法	<p>実験結果を取りまとめて考察を加えたレポート (50%) とその内容をわかりやすく伝える発表と発表内容に対する質疑応答 (50%) で評価する。</p>		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	<p>ポルハルト・ショアー 現代有機化学 化学同人 2019</p>		
科目のキーワード	酸化反応、空気酸化、光化学反応		
授業の特徴	<p>有機化学に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。</p>		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、実践栄養科学特講		
履修上の注意等 (履修条件等)	<p>栄養科学分野に限らず、地域社会学や情報学の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。</p>		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）		4単位
担当者職・氏名	教授・田中進		
授業概要とテーマ	形態機能学ならびに再生生物学をテーマに組織再生や正常機能発現、および恒常性維持に寄与する因子の同定ならび代謝性疾患の病態解明、診断法の開発、新規治療法を目指して、培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を通して研究指導を行う。研究指導教員による継続的な研究指導体制をとり、大学院生個々の研究テーマを設定するにあたり、関連する学問分野に関する高度な知識と解析手法の集積を図り、研究者としての基本的な資質を身につけるための指導を行う。具体的には、ゼミ形式により専門分野の最新の研究成果を掲載した学術論文などを精読し、研究成果の理解および課題発見能力を養う。また、研究成果の学会等でのプレゼンテーション能力・ディスカッション能力および学術論文の作成能力を養う。また、大学院生個々の研究計画に対応する指導を中心として、研究課題の設定、研究計画の立案、調査・実験、分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	1) 研究テーマの先行研究や背景について理解し、常にその情報をアップデートする方法論を身につける。 2) 標的臓器や標的幹・前駆細胞の基本的な形態学的情報や機能を理解する。 3) 研究テーマについて自ら実験計画を立案し、実験を遂行し研究を展開することができる。 4) 形態学的手法ならびに機能解析手法の理論と実際に習熟し、実験結果を正しく解釈できる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1	研究テーマの設定（１）	臨床栄養学に関連する事項についての国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	2	研究テーマの設定（２）	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	3	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	4	研究計画の立案（１）	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	5	研究計画の立案（２）	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	6	研究計画の立案（３）	作業仮説に基づいて、最適な研究結果の解析方法を立案する。
	7	研究計画の立案（４）	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	8	研究の実行（１）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（予備調査あるいは予備実験）。
	9	研究の実行（２）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（本調査あるいは本実験）。
	10	研究の実行（３）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（研究方法の微調整）。
	11	研究の実行（４）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（研究方法の修正を含む）。
	12	研究の実行（５）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（研究方法の再修正を含む）。
	13	研究の実行（６）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（他領域の教員とのディスカッションを含む）。
	14	研究の実行（７）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（追加調査あるいは追加実験）。
	15	研究の実行（８）	培養細胞実験、動物実験あるいは臨床研究を実行する（全体の振り返りを含む）。
	16	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢（研究内容に対するディスカッション、研究発表状況、関連文献紹介状況）を評価する。また授業内容の理解度を実験ノートならびにレポート（科学的、論理的に記述されているかを重視）にて評価する。 ディスカッション20%、研究発表状況30%、関連文献紹介状況15%、実験ノート15%、レポート20%		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	Tanaka S et al. Vitam & Horm 2012 89: 75-90., BBI 2016 57:58-67, IJMM 2019 43(5):2164-2176. Takizawa N et al. Sci Rep 2018 8(1):14542. Murata H et al. JBC 2020 295(28):9596-9605, JCM 2021 10(2) 351 その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	形態機能学、再生生物学、睡眠科学、摂食中枢、代謝性疾患、生殖医学		
授業の特徴	形態機能学・再生生物学に関連した研究テーマについて課題を設定し、その解決に向けての方策を学ぶため、研究テーマの選択、作業仮説の立案、研究計画の立案、研究の実行方法について習得する。		
関連科目	アカデミックスキル特講、地域創生学特講、地域創生学演習、実践栄養科学特講		
履修上の注意等（履修条件等）	栄養科学分野に限らず、地域社会学や情報学の観点も加味した研究テーマの設定を期待する。		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)		4 単位
担当者職・氏名	准教授・駿河和仁		
授業概要とテーマ	栄養生理学の視点から、ビタミンAおよびβ-カロテンなどの脂溶性栄養素の吸収や代謝機能が、どのような生理的要因(食事要因、環境要因など)で変動するのか、さらにそのメカニズムを解明することを目指し、核の中の出来事から細胞、個体レベルまでの幅広い視点から研究を遂行できるように研究課題の設定、実験計画(生化学的・分子生物化学的手法を用いた動物実験や培養細胞実験を中心とした)の立案および研究の遂行に向けた研究指導を行う。また、自身の研究遂行のために専門分野に関する文献などを精読し、研究の理解および課題発見能力を養う。		
到達目標	1) 主体的に研究課題を見出し、新規性のある研究テーマの設定、研究計画の立案ができる。 2) 自身の研究テーマに関係する知識や研究方法を国内外の過去および最先端の文献などから修得し、自身の研究に反映・発展させることができる。 3) 立案した研究計画にしたがって、研究を遂行し、成果の総括ができる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1~3	研究テーマの抽出	栄養生理学およびその他の関連領域の国内外の先行研究文献等を精読し、複数の課題を抽出する。
	4	研究テーマの決定	抽出した課題から設定した自身の研究テーマ案について、研究指導教員と意見交換を行い、研究テーマを決定する。
	5~6	研究計画の立案および準備(1)	決定した研究テーマについて、研究仮説を設定する。
	7~9	研究計画の立案および準備(2)	研究仮説を実証するための、研究方法を設定する。
	10~12	研究計画の立案および準備(3)	研究を遂行するために必要な研究サンプル(実験動物、培養細胞、試薬等)および研究機器等の状況、調達方法などを立案する。
	13~14	研究計画の立案および準備(4)	研究仮説に基づいて最適な研究結果の解析方法を立案する。
	15	研究計画の立案および準備(5)	研究仮説に基づいて立案した全体の研究計画案について、研究指導教員と意見交換を行い、研究計画を決定する。
	16~18	研究Iの実施(1)	動物実験または培養細胞実験を行う(動物飼育、細胞培養)。
	19	研究Iの実施(2) (研究進捗の報告含む)	研究の進捗状況の報告。
	20~22	研究Iの実施(3)	動物実験または培養細胞実験を行う(生体試料の分析・統計処理)。
	23	研究Iの実施(4) (研究進捗の報告含む)	研究の進捗状況の報告。
	24~26	研究Iの実施(5)	動物実験または培養細胞実験を行う(生体試料の分析・統計処理)。
	27	研究Iの実施(6) (研究進捗の報告含む)	研究の進捗状況の報告。
	28~30	研究Iのまとめ	研究Iのまとめおよび研究指導教員・副指導教員へ報告を行い、進捗状況に応じて学会発表、学術論文作成の準備を行う。
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A(優)・・・80~100点 B(良)・・・70~79点 C(可)・・・60~69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	研究課題に取り組む姿勢(概ね80%)とその理解度(概ね20%)などから総合的に評価する。		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	特に指定しないが、学術論文等の資料を必要に応じて紹介する。		
科目のキーワード	ビタミンA、β-カロテン、脂溶性栄養素、吸収・代謝、遺伝子発現調節		
授業の特徴	研究テーマに対し、目標を段階的に設定し、最終目標達成に向けた研究の計画立案および実施・考察・再検証を繰り返す。		
関連科目	基礎栄養科学特講、実践栄養科学特講		
履修上の注意等 (履修条件等)	研究に対し主体的かつ真摯に取り組み、研究成果に対しても客観的、多角的な考察も行う。また、定期的に論文抄読を行う。リサーチアシスタント(RA)としても、尽力してほしい。		

カリキュラム区分	科目名		単位数
	特別研究Ⅰ（１年次・通年）		４単位
担当者職・氏名	准教授・松澤哲宏		
授業概要とテーマ	食品衛生学、特に食品汚染の原因となる真菌に関する研究指導を行う。各自で設定した研究テーマについて研究指導を行う。また、その研究過程の中で企画力、想像力、統括力などの養成、併せて実験によって得られたデータの解析や集計、文献検索、論文作成、プレゼンテーションなどを通して解析能力、洞察能力や発表力などを身に付けさせる。また、将来の就職なども視野に入れ、研究課題の設定、研究計画の立案、実験および結果の分析に向けた研究指導を行う。		
到達目標	１）食品衛生学に関連する事項について文献を検索し内容の整理ができ、研究課題の設定に役立てることができるようになる。 ２）課題を設定し、自ら設定した研究テーマについて、到達目標および研究方法を設定できるようになる。 ３）先行研究を基に実験を行い結果の分析ができるようになる。		
授業計画	回	主題	授業内容
	１～２	研究テーマの設定（１）	食品衛生に関連する事項についての国内外の先行研究を調査し、興味のある課題を抽出する。
	３～４	研究テーマの設定（２）	抽出した課題に基づいて、現行の疑問や問題点などを精査し、自身の研究テーマを設定する。
	５～６	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説もしくは到達目標を設定する。
	７～８	研究計画の立案（１）	作業仮説もしくは到達目標に基づいて、研究方法を立案する。
	９～１０	研究計画の立案（２）	作業仮説もしくは到達目標に基づいて、研究を遂行するために必要な機器や試薬などについて調査する。
	１１～１２	研究計画の立案（３）	作業仮説もしくは到達目標に基づいて、最適な実験方法および結果の解析方法を立案する。
	１３～１４	研究計画の立案（４）	作業仮説もしくは到達目標に基づいて、研究全体の進行計画を確定する。
	１５～１６	研究の実行（１）	実験を実施する（予備調査あるいは予備実験）。
	１７～１８	研究の実行（２）	実験を実施する（本調査あるいは本実験）。
	１９～２０	研究の実行（３）	実験を実施する（研究方法の微調整）。
	２１～２２	研究の実行（４）	実験を実施する（研究方法の修正を含む）。
	２３～２４	研究の実行（５）	実験を実施する（研究方法の再修正を含む）。
	２５～２６	研究の実行（６）	実験を実施する（他の研究者との情報交換を含む）。
	２７～２８	研究の実行（７）	実験を実施する（追加調査あるいは追加実験）。
	２９～３０	研究の実行（８）	実験を実施する（全体の振り返りを含む）。
		定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照
成績評価の基準	A（優）・・・80～100点 B（良）・・・70～79点 C（可）・・・60～69点 D（不可）・・・59点以下		
成績評価の方法	ディスカッション（50%）および発表（50%）にて評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	Powell, et al. (Eds): The Genus <i>Aspergillus</i> , Springer Book Archive, 1994 Watanabe T. (Ed): Pictorial Atlas of Soil and Seed Fungi: Morphologies of Cultured Fungi and Key to Species, Third Edition, CRC Press, 2010 宇田川 俊一: 食品のカビ汚染と危害, 幸書房, 2004 その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	真菌の分類学、食品危害菌、分子生物学		
授業の特徴	食品衛生学、特に食品汚染の原因となる真菌に関する研究を行う。その研究過程の中で企画力、想像力、統括力などの養成、併せて実験あるいは調査によって得られたデータの解析や集計、文献検索、論文作成、プレゼンテーションなどを通して解析能力、洞察能力や発表力などが身につくようになる。		
関連科目	アカデミックスキルト講、地域創生学特講、地域創生学演習、基礎栄養科学特講、特別研究Ⅱ、特別研究Ⅲ		
履修上の注意等（履修条件等）	微生物に興味を持ち、自身の研究だけではなく、社会において微生物がどのように関与しているか広くアンテナを張っておく必要がある。		

カリキュラム区分	科目名	単位数
	特別研究 I (1 年次・通年)	4単位

担当者職・氏名	准教授・飛奈卓郎		
授業概要とテーマ	身体活動、運動や身体能力に焦点を当てて、人々の健康の維持・増進や身体パフォーマンスを向上させるための方法が提案できるような研究を進めるための指導を行う。本科目を履修するまでに学習してきた運動生理学・栄養学の知識を最大限に活用してもらい、その発展から社会における自分の研究の位置づけや価値観を構築する能力を養う。		
到達目標	1) 健康体力科学分野における研究課題を設定して、その課題解決に向けた研究方法を立案できる。 2) 研究テーマに関連する国内外の先行研究を、批判的かつ建設的な視点で理解する能力を身に付ける。 3) 自分自身の研究テーマについて必要な技術を身に付ける。		
授業計画	回	主題	授業内容
	1～2	研究テーマの設定(1)	健康体力科学分野の国内外の先行研究を精読し、興味ある課題を抽出する。
	3～4	研究テーマの設定(2)	抽出した課題に基づいて、自身の研究テーマを設定する。
	5～6	作業仮説の立案	設定した研究テーマについて、作業仮説を立案する。
	7～8	研究計画の立案(1)	作業仮説に基づいて、研究方法を立案する。
	9～10	研究計画の立案(2)	作業仮説に基づいて、研究を遂行するために必要な資料や機材の調達方法を立案する。
	11～12	研究計画の立案(3)	作業仮説に基づいて、全体の研究計画を確定する。
	13～14	研究計画の立案(4)	研究計画書の作成と研究倫理審査委員会への提出書類を作成する。
	15～16	研究の実行(1)	研究対象者のリクルート並びに説明を行い、研究参加への同意を得る。
	17～18	研究の実行(2)	研究対象者のリクルート並びに説明を行い、研究参加への同意を得る。
	19～20	研究の実行(3)	研究を実行する。
	21～22	研究の実行(4)	研究を実行する。
	23～24	研究の実行(5)	研究を実行する。
	25～26	研究の実行(6)	研究を実行する。
	27～28	研究の実行(7)	研究を実行する。
	29～30	研究の実行(8)	研究を実行する。
	定期試験は実施しない	成績評価については「成績評価の方法」欄参照	
成績評価の基準	A(優)・・・80～100点 B(良)・・・70～79点 C(可)・・・60～69点 D(不可)・・・59点以下		
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢と学習内容の理解度から総合的に評価する。		
テキスト	特に設定しない。		
参考文献	Exercise Physiology: Nutrition, Energy, and Human Performance. 8th edition. Lippincott Williams & Wilkins. 2014. その他、各自必要に応じて適切な参考書を選択すること。		
科目のキーワード	健康づくり、身体能力、有酸素性作業能力、最大酸素摂取量、生活習慣病予防		
授業の特徴	ヒトを対象とした研究が主となるためコミュニケーション能力や、チームで動く力を身に付けることができる。		
関連科目	アカデミックスキル特講		
履修上の注意等(履修条件等)	研究テーマの学術的な意義だけでなく、社会におよぼす影響や意義について説明できるよう幅広い物の考えや知識を持ってもらうことを期待する。		